

# シルバー ながの

第47号  
2022.3月発行  
SILVER  
NAGANO

公益社団法人

長野県シルバー人材センター連合会

〒380-0841 長野市大門町51番地1

TEL 026-237-4680 FAX 026-237-5665



画像は平成28年の様子です

〜ときは令和へ〜 七年に二度の盛儀

## 穂高神社式年遷宮と 穂高人形ものがたり

安曇野市にある「穂高神社」は日本アルプスの総鎮守として信仰を集め、古代北九州より移り住んだ安曇族の祖神「穂高見命」を御祭神として祀っています。

穂高神社の長い歴史と伝統の中で、最も重要で最大の祭りが、二十年ごとに本殿を造り替える「式年大遷宮祭」と二十年の間に二度本殿の修復・清掃を行う「小遷宮祭」です。今年是小遷宮の年にあたり、5月寅の日・寅の刻に厳粛に本殿遷座祭が斎行されます。

また、四月二十九日から五月十五日まで、「穂高人形ものがたり」と呼ばれる人形展が神社境内で開催されます。穂高人形とは、木やワラ・とのこ・にかわなど、すべて昔ながらの材料・道具を用い、素人が素朴な技法で制作する伝統の人形で、古くから氏子の手によって、大切に受け継がれてきました。喜怒哀楽、その豊かな表情と温かみのあるしぐさが特徴で、作り手の心がひとつひとつにこめられています。神話や民話・歴史上の様々な名場面が飾り付けられ、大規模で迫力があり、躍動感あふれる人形絵巻を見ることができまので、ぜひご覧ください。

さらに期間中は、安曇野のグルメやクラフト、アウトドアなどのお店を集めたイベント「あづみ野てらす」も開催予定です。今年の春はぜひ安曇野へお越しください。

写真提供 穂高神社  
問い合わせ 安曇野市観光協会

安曇野市観光情報センター

0263-82-3133  
0263-82-9363

# 高齢者活躍人材確保育成事業 令和3年度総力特集

更埴地域シルバー人材センター

事務局長 竹内 司

## ◆課題と向き合う◆

構成市町の人口推移における高齢者層の増加とは逆に会員数は平成20年をピークに徐々に減少し始め令和2年度末までに約300人が減少しました。

粗入会率でも平成22年国勢調査時と直近の率を比較すると3・6%から2・6%に減少しています。

今、多くのセンターでも課題になっていると思いますが、人口減少や高齢社会の進行によって、例えば植木の剪定業務や草取り・草刈り業務、生活支援といった分野でシルバー人材センターに寄せられる期待が徐々に高まっているものの、その一方で、会員の減少のみならず会員の高齢化によって、実はそうした期待に十分応えきれなくなってきたという事です。

当センターも例年重点目標に「会員の拡大」を掲げながら、特に会員の約3割の構成比で推移している女性会員の拡大を最重要目標に様々な新規加入促進策を展開しています。

## ◆事業の導入◆

その一つが「高齢者活躍人材確保育成事業」で、令和3年度は実質3年目の挑戦でした。特に女性をターゲットとして、如何に効果的に新規加入に結びつけるの

かでありました。

それは、1年目の「食育セミナー」から始まりました。魅力あるセンターづくりの一環として大勢を対象にした講演会的セミナーで、247名の参加を得ましたが、新規入会者の獲得にはほとんど結びつかず効果的セミナーとはいえませんでした。

終了後のアンケートでも既会員を除く一般参加者の回答では「入会したい、どちらかといえば入会したい」、「わからない」と答えた人がそれぞれ約4割で合計8割を占めました。

では、どのような取組みがあれば入会したいかの問いに対しては、「健康や体力面への配慮」「働きたいと思える魅力的な仕事の紹介」「自分の知識や経験を生かすことのできる機会の創出」「仕事以外の活動(サークル・体操・旅行等)の充実」が圧倒的多数を占めました。参加者の声“を聞くことができた1年目でした。

## ◆挑戦◆

こうした経験を踏まえ、センターとして2年目以降はPR段階から始まり、事業として何をどう形づくることで如何に効果を生み出すことができるのかを職員の中で検討し、実践してきました。

一部を紹介させていただきますが、まずセミナーや技能講習会を開催するにあ

たっては、単発ではなく、複数回の開催としました。そのメリットは、①参加者が複数回集まることで仲間意識が醸成される。②職員ともコミュニケーションが頻繁に行え、加入促進にもつながる。③ひと月に2回行っている「入会希望者説明会」との連携も図れ、期間中であれば入会希望者への迅速な対応を可能とした。などでした。

また、メニューの選択については、特に女性が興味を持ちそうな内容で話を聞くだけでない参加型とし、並行しながら講師の選任(身近な講師)にも考慮しました。キーワードは、「健康・美容・ファッション」、また当たり前のように日常でこなしている「家事」に関することや、「お徳感」として体験後は自宅でも楽しめるものとなりました。特に「物」を作る、体を使う(動かす)を通じ、参加者同士の会話を弾ませる狙いもありました。さらに当センターの年会費は2,500円です。で、年会費以上の価値を感じさせることで「入会しても参加した方が“得”」感を与え、入会にあたっての動機付けの一つとしました。

技能講習には他職種へのチャレンジや自らのスキルアップのため、会員にも声掛けを行い、一緒に参加してもらいました。センターの様子や就業についての声を聞く機会が得られ、入会への後押しにもつながりました。

これらを実施するにあたりPRも重要でした。PR用のチラシにしても如何に効果的に人の目に触れさせるか、見た人が「参加してみたい」と思わせるかであり、そのための紙面の工夫や配布方法、配

布のタイピングなどについても策を練りました。紙面については、専門業者の力を借り、配布についてはチラシの新聞折り込み、センターニュースの活用による全戸配布、関係施設への掲示も行いました。すべての会場にセンターのPR用パネルの展示をしました。パネルは親しみがもてるようにあえて職員が手作りしました。また、手芸クラブの作品も展示するなど、会員の活動を通じた魅力発信にも努めました。この作品展示については会員の成果を発表する場としても効果があつたといえます。

もう一つの特徴としては、ある意味大胆かもしれませんが、参加にあたっては「入会前提」を条件としたことでした。当然のことながら抵抗感を持つ人もいますが、大勢を集めて入会希望を待つ(受け身)よりも攻めの姿勢を押し出しました。



▲ 講座で挨拶する竹内事務局長

## ◆課題◆

結果として本事業によって、コロナ禍ではありましたが比較的高い確率で新規入会者を確保することができました。しかし全体とすれば課題はあります。

本来、当然のことながらセンター事業として行うもの、行っているものと思いますが、センター予算だけでは限界がある中、財政的支援を受けられての実施は大きな力となりました。しかし、予算の削減（縮小）が見込まれる中、少ない経費でもどう効果を高めていくか、もう一点は、「シルバー（イコール）就業」だけではなく、センターならではの魅力をどう創出していくか、これからの課題として会員とともに知恵を出し合い検討し、実践に繋げていきたいと思えます。

アンケートにもあったように、自らの知識や経験を生かしたいと考えている高齢者もいる中で、そうした場を提供する役割もセンターに求められていると思えます。

新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見通せない中であつて、すぐには情勢の好転は望めないかもしれませんが、立ち向かっている少子高齢社会とそれに伴う将来展望に立ったセンターづくりを目指し、実践し続けていくことが重要だと思えます。

## 安全標語・最優秀賞は

### 上田の中澤芳江さん

今年度は702作品の応募がありましたが、厳正な審査の結果五名の方の入選が決定しました。

## 令和3年度

### 安全・適正就業標語入賞作品

最優秀賞 上田地域SC 中澤 芳江

「出来るはず 無理と過信が 事故まねく」

優秀賞 木曾SC 宮本 傳

「事故防止 準備、段取り、ミーティング」

佳作 長野SC 樋口 周平

「念のため そのひと手間で 事故防止」

佳作 更埴地域SC 樋田 強

「気が付いて 見て言う勇氣 仲間なら」

佳作 茅野広域SC 小池 幸夫

「安全は 日々の基本の 繰り返し」

## 受講者の声

### 日常生活支援講習を受けて

上田市会場 辰野 桂子

今回の講習は広報うえだ十月号で知り、申し込みました。

昨年定年となり、十一月に実家、丸子の方に帰郷し親と暮らすようになり一年となります。

親も高齢者、まだ介護は要していません。



▲ 食品添加物についてのお話

んがこれから必要となると思えます。今回のテーマである日常生活支援講習は今後の自分にもとても役立つものでしたが、この三日間だけでは奥が深過ぎ難しさも感じました。訪問型サービスマ事業については文章だけの説明で幅が広過ぎ難しく思えます。

介護と保健ガイドブックでお話頂いた認知症の基礎的理解、生活援助の方法内での接し方、コミュニケーション技術、心得、倫理はこちらに帰ってきて一緒に暮らすようになった九十二歳高齢の父との接し方にとっても参考になり、したいと実感しました。最近認知症まではいっていませんが物忘れが増え、耳も遠く私の言うことを理解してくれてないようで、自分のイライラを父にぶつけてしまっていました。

掃除の基礎知識、実習もスポンジ一つ、洗剤一つ今まであまり考えずに使用し、やっていたことが基礎を教えて頂きお掃

除も洗濯も窓ふきも少し楽しんで出来る気持ちです。

また今回、シルバー人材センターというものが少しわかりました。一年たちますがなかなか、まだまだこちらの生活に慣れません。まだまだ仕事はしたい働きたいと思っています。

広報うえだを見てこのような講習やパソコン研修、ハローワーク等に行っています。

今回、この講習会で五人の方々ともお話、知り合え参加してよかったと思えます。またこのようなセミナー、体験、講習がありましたら参加したいと思えます。

### 庭木・庭園管理講習に参加して

上田市会場 小山 正樹

私は上田地域シルバー人材センターへ今年4月に入会したばかり。真田支所に所属し、草刈り作業の班に入れていただき、先輩諸氏からのご指導で草刈りの共同作業を始めたところである。丁度草刈りの繁忙期にあつて、その仕事を断って今回の講習に参加した。

これまで庭木の剪定作業などを経験したことがなかった初心者であるが、今回の講習では先生方に分かりやすく教えていただいた。作業道具の名称も分からず、植木の名前も分からず始めたのであるが、剪定作業の実技指導を受けながら、だんだん剪定作業が面白くなってきたところで4日間の講習が終わってしまった。わずか4日間で習得できるようなものではないが、道具を揃え、これから学び

験を積んでいく意欲を持つ機会を得る事が出来た。

これからも、シルバー人材センターでいろいろな仕事が出来るように努力していきたいと思う。

講師の先生方、センターのスタッフの皆さんに感謝申し上げます。



▲ 開講・オリエンテーション

せんでした。

自宅の庭木は自己流で剪定していますが、今回対価をいただいて行う剪定作業に従事するには、技術は勿論、なぜそうするのかという基礎的部分を知ることが必要と思われ受講しました。

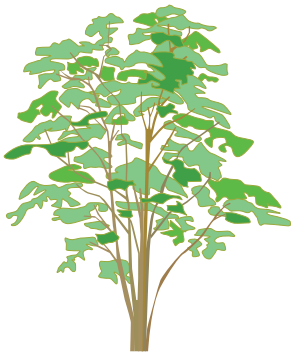
剪定等を生業とされているプロの方からの実演を含めたご指導はとても分かり易いものでした。今回教えていただいたことを、まずは自宅の庭木で実践して、今後、剪定の依頼があった時に自信をもって作業に臨めるようにしたいと思えます。

来年、再来年、その先と考えるながら行うという講師さんの教えを少しでも実現できるように頑張りたいと思います。

出来る事なら、来年、再来年も同じ講師さん、同じ場所での剪定の結果を確認しながら講習を受けたいと思います。

シルバー人材センターの会員になって十年以上たちますが、報酬を頂くような剪定作業には一度も従事したことがありません。

庭木剪定講習を受講して  
木曾町会場 奥谷 正彦



▲ 講師の説明を真剣に聞く受講者

庭木剪定講習を受講して

木曾町会場 畑中 清一

私は今まで、家の周りのサツキやツツジ等を自己流で剪定していましたが、以前から、このような庭木剪定講習があればぜひ参加してみたいと思っていました。

今回、町内回覧で、木曾シルバー人材センターの高齢者活躍人材確保育成事業の庭木剪定講習の募集チラシを見て、さっそく申し込みをしました。



▲ 実際に目で見て覚えたい樹木

家の周りのサツキやツツジは、全体の形が整えば何とか自分でも剪定できましたが、松は中々できないためシルバー人材センターにお願いしていました。しかし、近年、センターでは松を剪定する人が少なくなり、お願いしても剪定は難しいとのことでした。

今回、3回の講習を通して、短い時間ではありましたが講師の先生から、今まで知らなかった庭木剪定の基本を親切丁寧に教えていただき、何とか自分でもできそうな気持ちになりました。

今後、今回学んだ基礎技術を、まずは自分の家の庭木から取り組んでいき、いざ、シルバー人材センターで活かしていければ良いかと思えます。色々ありがとうございました。



花木剪定講習に参加して

飯山市会場 滝澤 功一

今回、困った時の保険にと、自分の能力アップにと思い、申し込みました。

会場に着き、資料を見てギョ、苦手なアンケート、原稿用紙、作文参ったな。

申し込み間違えた、えらいことに・・・頭フル回転、入会、エツ、こりやあ大変でしょう。山田さんの講習が始まり、ロープワークが始まり、楽しく過ごして、

えらいことを忘れて没頭。次に、花木剪定講習、枝を分けてもらい、なるほどと



▲ ロープ(紐)の結び方

関心、プロの技術を教えていただき、とても楽しく時間の過ぎるのも忘れて、とても良い時間を過ごさせて頂きました。アンケート、原稿用紙、に入会どうしよう、エライ宿題付き・・・、気楽に考えていました。

## 高齢者活躍人材確保育成事業 事業推進補助員の1年を振り返って

### 事業推進補助員 熊谷勝行

私は、長野県シルバー人材センター連合会からお誘いをいただき、令和3年度の事業推進補助員を務めました。

この1年間は、諸先輩のご指導と関係スタッフの皆様からご支援を受け、上田地域を対象とした3つの講座を無事終了させることができ、事業推進補助員としての1年間の責任を果たすことができたことに感謝しております。

1年間を振り返ってみますと、毎日雷雨に見舞われた6月の4日間に亘る「庭木剪定講習会」は、私としての初めての経験でもあり、受講者募集から開催に至るまで戸惑うことが多く、円滑な運営に努めたものの、振り返ってみれば関係する皆様にご心配をお掛けしたことが多かったと思います。

この講習会では、ほぼ募集定員を満たす受講者を得ることができ、全員が真摯な態度で講習に臨まれていることに感銘を受けました。講習中も受講者とお話し

する機会があり、様々な分野において社会貢献され現在に至っていることをお聞きすることもできました。また、話題も豊富であり沢山の貴重な経験を積まれてきたことをお聞きすると、是非シルバー会員として活躍していただきたいと思いましたが、昨年12月末における受講者の入会状況を確認すると、約30パーセントに留まっていることに落胆と疑問を感じる結果となりました。

講習会を開催しても、シルバー人材センターへの入会率が低いのはなぜなんだろう、アンケート結果と個人的な意見を含め下記事項が考えられると思います。

①既に就業者が満たされていて、今回受講した技能を活用した業種に就業できないのではないか。

②入会登録しても継続的な仕事の依頼がないのではないか。

③現在、再就職先を検討中であり、一般企業への再就職を優先したい。

④自宅の庭木剪定のために講習会に参加したが受講者の意見と、私の考察です。

9月は半日でありましたが、厳しい残暑の中での「ブドウ収穫就業体験」を開催しました。この就業体験も上田地域外から参加希望を寄せるなど、これら希望者も全て受け入れて、ほぼ定員を満たし開催することができました。

参加者からは、「青空の下でこのような作業を行うことが自分の性格に合っているんだ」と、参加できた喜びの声を聞きすることもでき、はつらつと就業体験に臨んでいる姿が見受けられました。就業体験に先立ち、参加決定通知に会場



▲ オリエンテーションでの熊谷さん

までのルート図を同封したのですが、会場への進入路が分かりづらく案内看板を増設すべきであったと反省しております。

この就業体験でも参加者から様々なご意見やご質問をいただくことができました。一部の参加者からは「この仕事は会員登録しても既に当該地域のメンバーで満たされており、ブドウ収穫作業は難しいのではないか」とのご質問をいただきましたが、明確な回答ができなかったことに申し訳なく思っております。

また、この就業体験に参加された方の入会状況も約20パーセントと低調であり、就業体験中の聞き取りでも①希望する業種に就業できない。②シルバーで自分が希望する仕事内容が少ない。

③シルバーでの収入より、一般企業への再就職の方が有利である。などが主な意見でした。

晩秋の11月には、今年度最後の3日間に亘る「日常生活支援講習会」を開催す

ることができました。受講者募集につきましましては、希望者が極めて少なかったことから、各支所にも情報提供をお願いするとともに、自らPRに走り回るなどして、ようやく開催可能な受講人数を確保することができましたが、新規入会登録に結びつけることはできず、会員を増やすことの難しさを痛感しました。

現在、令和3年度の講習会と就業体験にご参加いただいても、シルバー会員に未登録となっている方々へ、電話にて近況をお聞きするとともに、これらの方に「入会をお願い」文書をお送りして新規入会登録を促進しています。

令和4年度からは、各講座の募集定員に対する参加率と新規入会登録率の目標値が設定される情報をいただいております。

今後は「入会を前提とした講座開催であることを明確化する」「講習会や就業体験においてシルバーメンバーに参加をお願いし、活発な交流と意見交換を行い不安の払拭に努めるとともに、入会意欲を醸成する」「至近年における業種別就業状況を提示する」等々、既成概念に捉われない新たな発想に基づく活動を積極的に提案・展開させ、更に長野県シルバー人材センター連合会ならびに上田地域シルバー人材センターとの報告・連絡・相談を密に行いながら連携を深めて、目標達成に挑戦したいと考えております。

最後に、令和3年度ご支援とご指導をいただいた関係者の皆様には厚く御礼を申しあげるとともに、令和4年度も引き続きのご支援とご指導を賜りたくよりしくお願い申し上げます。

公益社団法人  
駒ヶ根伊南シルバー  
人材センター

〒399-4103  
駒ヶ根市梨の木2番22号  
TEL 0265-83-8184  
FAX 0265-83-8311

- ・理事長 鬼頭 隆雄
- ・副理事長 林 憲明
- ・専務理事・事務局長 小松原 豊
- ・法人設立 平成3年6月28日(広域化)
- ・構成市町村 駒ヶ根市・飯島町・中川村・宮田村
- ・会員数 686人(令和3年12月末現在)
- ・契約金額 366,013千円(令和2年実績)

シルバーだより



KOMAGANE



「桜咲く坂戸橋」  
\*令和2年に国の重要文化財に指定

地域の概要

所在する地域は、長野県の南部、伊那谷のほぼ中央に位置し、東に南アルプス、西に中央アルプスの3千メートル級の山々を望み、「ふたつのアルプス」を眺望できる、自然豊かな地域です。

当センターは、駒ヶ根市・飯島町・中川村・宮田村の1市1町2村(60歳以上人口は約2万1千人)で構成する広域センターです。

構成市町村では地域農業の特産化が進められており、シルバー会員の力は、農家は勿論、行政からも期待されています。

今回は、中川村の「果樹栽培」を紹介します。

地域農業に  
シルバーが貢献

中川村は、その名の通り村の中央を天竜川が流れる河岸段丘の村で、その地形と気候のおかげで、りんごやぶどう・市田柿など、多種の果樹栽培の適地となっています。

特に「りんご」は、隣接の松川町と共に伊那谷の中でも早くから栽培が始まり、村の特産品となっています。

また、干し柿作りは南信州が有名ですが、上伊那地方も中川村を中心に、多くの農家で「市田柿」を生産しており、軒

下の黄色い「柿すだれ」が晩秋の風物詩となっています。

果樹栽培には人の手に頼る部分が多くあり、春の「花の受粉作業」から秋の「収穫・加工作業」まで、季節ごとに時期の限られた作業が多くあります。そこで頼られるのがシルバーの労働力で、一年を通じて毎年多くの会員が汗を流しています。

中川村に来られた際には天竜川沿いの

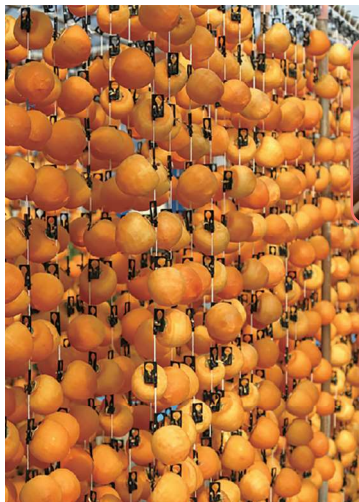


リンゴの収穫作業



「中川ショッピングセンターチャオ」裏手の公園からは天竜川とアルプスを眺望

活動・地域の紹介



色鮮やかな黄色の「柿すだれ」



白い粉が甘さのバロメーター



皮を剥いた柿を吊るすための準備作業



柿の収穫作業

「中川ショッピングセンターチャオ」にお立ち寄りください。地元農産物の直売所のほか、裏手の公園では天竜川の流れを眺めながら子供は遊具で楽しめます。

公益社団法人  
中野広域シルバー  
人材センター



青空の雪下ろし 体力と安全帯が必需品

〒383-0025  
中野市三好町一丁目4番6号(中野市三好町庁舎)  
TEL 0269-23-0468  
FAX 0269-23-0041  
・理事長 湯本 静雄  
・副理事長 高木 武彦  
・専務理事・事務局長 花岡 隆志  
・法人設立 平成3年4月1日(平成6年4月広域化)  
・構成町村 中野市・山ノ内町  
・会員数 760人(令和3年12月末現在)  
・契約金額 408,098千円(令和2年実績)

シルバーだより



NAKANANO

センターの概要  
中野広域シルバー人材センターは北信地域にある山ノ内町と中野市をエリアとして運営しています。令和3年度会員数は841人で粗入会率は3.7%でスタートしました。  
山ノ内町の人口は1万2千148人(令和3年4月現在)。志賀高原を含む自然に恵まれた環境の中、観光産業、及び、一般家庭の営農支援(りんご栽培農家)等の就業を中心に活躍されている会員さんが多くいらっしゃいます。山ノ内町といえは日本有数の温泉地です。もちろん

ウィンタースポーツでは有名ですが、近年、世界中に知られた観光地が、愛称「スノーモンキー」の地獄谷野猿公苑です。こちらでも当会員さんが訪れる観光客のおもてなしをさせていただいています。また今シーズンは異例の降雪量のため高齢世帯者宅の雪下ろし作業を実施しています。数年に一度の大雪に当センターへの協力依頼も50件を超えました。会員の高齢化も進んでいる中、日々、各家庭を回り作業をする会員さんには頭が下がる思いと、より一層の安全就業を呼びかけていかなければと思います。  
また、中野市は人口4万2千6人(令和3年4月現在)。主産業は農業で、え



剪定講習会

アスパラガスなどは全国有数の生産量を誇り、南部には、長野盆地の北端にあたる、「延徳田んぼ」と呼ばれる田園風景が広がっています。しかし、高齢化は当地区でも例外ではなく既存農業の維持、また新農業への転換にも多くの人手が必要で、当センターでも農業支援は幅広く対応させていただいており、果樹栽培、水稲栽培、田園管理、休耕地の草刈りなど年々受注量が増えている状況です。令和3年11月末職群別実績(一般作業)は1億300万円余、全体の構成比は54.7%です。シルバー会員も平均年齢が毎年上がっていく中、地域の皆様の期待に応えられるよう後継者の育成、新会員の入会に、苦戦している状況です。令和3年度も新型コロナウイルスによりセンターの活動も制限され、会員同士の互助会活動も自粛



ポイントカード

活動・地域の紹介



地区奉仕活動



安全第一に(ザイル、安全帯を使用)4人一組で連日一人暮らし世帯を中心に雪下ろし作業に就業しています

されていますが、シルバーポイント制度もより身近になるよう制度の見直しを行い活力ある会員組織を目指しております。  
令和4年度より中野市は市民への広報紙(月1回)配布を全戸ポスティングで行うこととし、当センターはこの業務を新事業として請負うことになりました。令和4年4月より40余名のシルバー会員が、全地区・全世帯に元気と笑顔を届け、新しい風の吹いてくれることを期待しております。

# 令和3年度は重点目標を『危険ゼロ』と定め、具体的取り組みとして

## 安全・適正就業対策を推進しましょう

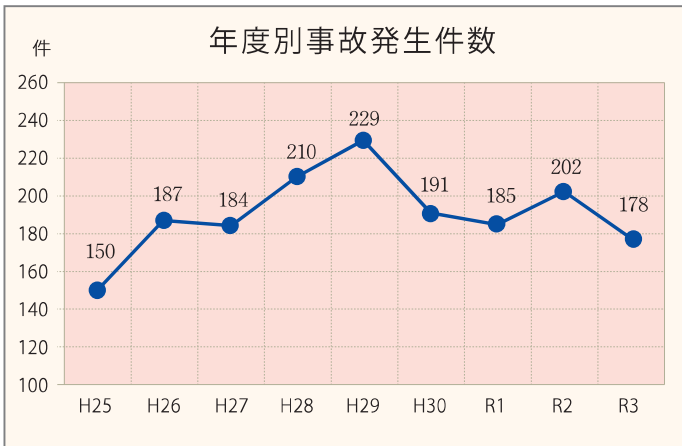


- ・「安全ミーティングの完全実施」
- ・「安全装備使用の徹底」
- ・「健康診断受診及び健康体操の奨励」
- ・「交通事故防止」

を掲げ取り組んできました。

その結果、1月末現在において、事故件数は178件（昨年同期186件）と8件減となりました。内訳を見ますと、就業中の事故件数は165件（同175件）と10件減となりましたが、就業途上の事故件数は13件（同11件）と2件増となっています。

重篤事故（死亡または6か月以上入院事故）は発生しておりませんが、入院1か月以上6か月未満事故については3件（昨年度2件）で、就業中に2件、就業途上に1件発生しています。シルバー人材センターで発生する事故のほとんどは就業中であり、これまでに発生している事



故は未然に防ぐことが出来るものがほとんどです。

今年度については、除草・草取り作業中の事故は92件で14件の増、自動車運転等も13件で3件の増となっていますが、植木剪定作業中の事故は18件で15件もの大幅減となっています。これは前年度に植木剪定作業中の事故が多かったことから、注意喚起の徹底が改めてなされた結果だと思われます。会員の高齢化が年々進んでいることを踏まえ、身体能力の低下を自覚しつつ、一層の注意をしながら作業に臨むことが大切だと思われます。

『自分の安全は自分で守る』という意識で、予防や向上のための努力を怠らないこと、また、安全は過信することなく、先ず自覚に基づいた動作がポイントとなります。

会員の皆さんが安全で安心して就業するための安全就業の取り組みは、センター事業にとっても最重要課題であり、会員一人ひとりが安全に対する意識や危機感受性を高めて、就業場所の整理・整頓、就業前の安全ミーティングの実施（KY活動）、見える化等を自主的、積極的に実行していくことが事故の防止に結びつくこととなります。

来年度は、今年度の四つの具体的取り組みに「安全・適正就業対策推進委員会と各センターの安全推進員などによる安全対策の点検と徹底による事故防止体制の確立」を加えて、より一層の安全・適正就業を推進してまいりますので、会員の皆さんも新型コロナウイルス感染症や熱中症に十分気を付けながらご協力をお願いいたします。

### 編集だより

今年の冬はとにかくよく雪が降った。このところ小雪の年が続いた後だから、連日の雪片付けが体にこたえる。それでも一汗かいて綺麗に片付いた後を見ると何となく爽やかになるから不思議だ。

コロナ禍の中だが無事に冬季五輪が終わった。この大会のために郊外の会場への鉄道を造ったり、大量の人工雪で雪のあまり降らないところに会場を造るなど大国の力を見せつけられた大会でもあった。

大国と言えばウクライナの問題も思い出される。お互いに主張を貫こうとすれば当然軋や紛争は避けられない。

ところで雪国信州には「雪かき隣三尺」という言葉が昔からある。これは相手が負担に感じない程度に思いやることであり、これが隣人との争いを避けて、円満に暮らしていく知恵だったのだろう。そして、農閑期の冬はお互いの家を行き来してお茶をするのが楽しみであり、来るべき春への鋭気を蓄えたりしていたものだ。

世界にもこういうルールがあればどれほど幸せなことが。大国になるほど力を誇示するようになり、自分の都合しか考えられなくなる。だが、いくら力を振りかざしたところで、思うようにはならないのが常である。大国のリーダーにこそ雪かきをしてもらいたいものだ。そして、そこに笑顔が見えるようになれば、全ての人がお互いに慈愛を持つことが出来るようになる。

でも、本音を漏らせば私達の雪国に降り積もる自然の雪を大国に降らせるような大規模な仕組みを造ってもらえれば助かるだけだ。もうすぐ春です。コロナが早く収まる日が待ち遠しいこの頃です。